NO.18

MY FIELD

MY FIELD とは…
原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。
原村で暮らす、おもしろくて素敵なひとを紹介します。

「八ヶ岳自然文化園 専務」
林　誠二さん（57）

お金だけが目的ではない豊かな暮らしを求め、13年務めた会社を退職し、キャラクターのマーケティングを手掛ける会社を設立。東京で生活をしていたが、日々の暮らしをより良くしたいと2014年に北杜市への移住を決意。北杜市の地域おこし協力隊として2年間活動後、八ヶ岳自然文化園の専務に就任する。

八ヶ岳クラフト市 秋の市 10月26•27•28日開催

文化園を『八ヶ岳の入門的な場所』にし地元の人と外からの人が触れ合える場にしたい

東京での生活を、人が増えすぎてみんなストレスを抱えながら生活をしていると振り返る林さん。日々の暮らしをより良くしたいと考えたとき、自然と地方に目が向いたと言う。

「八ヶ岳エリアは自然が豊かでありながら都心からのアクセスも良く、暮らすのに不便がない。すごくバランスが取れていると感じました。」と語り、暮らしやすさを実感しているようだ。

北杜市の地域おこし協力隊では『バイクロア』というアウトドアイベントの招致等を手掛け活躍されていたが、しっかりと腰を据えて自分のやりたいことを実現させたいと考え八ヶ岳自然文化園の専務の職に就いた。

当初、「文化園は閉鎖的で自由に使いづらい」という声をよく聞き、せっかく良い場所にあるのだから、登山が目的ではない人も目指して来られるような『八ヶ岳の入門的な場所』にしたいと考えた。

「今の若い人たちの感覚に合うようにアップデートし、様々な切り口で新しい人を呼びたいです。」と話し、都会と地域を繋げるきっかけ作りを目指している。

その裏側には、もっとバランスの取れた気持ちの良い暮らし方があるということを多くの人に知ってもらいたい。今の子どもたちにも東京での就職が当たり前ではなく、多様な生き方、可能性があることを見せたいという想いがある。

これからの文化園について尋ねると、「原村に住んでいる人たちにも沢山来ていただき、外から来た人たちと触れ合える場にしたいです。」と、違いがある者同士の新しいコミュニケーションが生まれる空間を提供したいと考えている。

先月行われた文化園30周年記念『村民の日』のイベントも地元の方とのコミュニケーションの場として開催された。

「自分は中継ぎ的な役割だと考えています。良い形で地元の若い人たちにバトンタッチできたら嬉しい。」と笑顔を見せてくれた林さん。普段はクールで落ち着いた印象だが、胸の中にある村の未来を想う温かい想いに触れることができた。

NEXT MY FIELD No.19は，八ヶ岳中央農業実践大学校で花苗を作っている伊東 麻紀さんをご紹介！次回をお楽しみに〜◎